

会報

冬
No.156

2012.1

社団法人北海道電業協会





年頭ごあいさつ

北海道開発局

営繕部長 内野井 宗 哉

平成24年の年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

社団法人北海道電業協会の皆様には、国土交通省における北海道開発行政並びに官庁営繕行政の推進にあたり、日頃からご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

北海道開発局営繕部では、国の出先機関が使用する官庁施設の整備と、これら官庁施設が常に適正な機能・性能を維持できるよう国の出先機関に対し保全指導を行うなど官庁施設に関する指導・監督を行っております。これらは良質な施設とサービスの提供とともに、膨大なストックである国有財産を有効活用するファシリティマネジメントへつながるものです。

施設整備にあたっては、時代の要請である耐震安全性の確保、地球環境問題、ユニバーサルデザインへの対応を図る必要があります。

昨年3月11日に発生した東日本大震災は、M9.0の大地震とそれに伴い発生した津波により、多くの生命と財産が失われた歴史に残る大災害となりました。官庁営繕においても国民生活の安全・安心を確保するため、耐震性の向上を始めさまざまなリスクを想定した施設整備を進めています。

また、昨年3月には「官庁施設の環境保全性基準」が国の統一基準として決定されました。この基準では、官庁施設に求められるCASBEE、PAL、CECの目標値など環境保全性の水準及びこれを確保するために必要な技術的事項等を定め、環境負荷の低減及び周辺環境の保全に配慮した官

庁施設の整備を推進することとしております。

一方、入札契約関連では、一般競争入札の拡大、総合評価落札方式の拡充を始め手続きの透明性・客観性を確保しつつ、工事の品質確保の観点から、低入札に係る特別重点調査や施工体制確認型総合評価等の取組みを進めています。

近年では不調・不落も多く見受けられることなどから、工事費の積算につきましては、「公共建築工事共通費積算基準」の改定により、従来の工事規模の他に工期に応じた現場管理費の算定を行うこととしております。

これら営繕工事の品質確保に向けた取組みや総合評価落札方式などについては、出前講座も行っておりますのでご活用いただきたいと思います。

耐震安全性の確保、地球温暖化対策、ユニバーサルデザインなど建築設備に関わる企業や技術者の方々が果たすべき役割は、今後ますます重要なものとなってまいります。貴協会の会員の皆様がさらに研鑽を積み、北海道ならではの積雪寒冷地の特性を活かした技術力を存分に発揮していただくことを期待しております。

最後になりますが、北海道開発局ではコンプライアンスの徹底に向けて取り組んでおりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が北海道の将来にとって希望の年となりますよう、そして、貴協会のさらなるご発展と会員の皆様の一層のご健勝とご活躍を祈念して年頭の挨拶とさせていただきます。



平成24年の新春を迎えて

社団法人 北海道電業協会

会長 吉川 照一

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、何かと厳しい時代環境下ではありますが、新たな希望を胸にご家族お揃いで新しい年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年を顧みますと、日本経済は、デフレ基調による経済の低迷、ギリシャの財政危機に端を発した世界経済の減速とこれに伴う過度の円高の進行、加えて東日本大震災の影響や原発事故による電力需給バランスの不安からたいへん厳しい環境にありました。今後、本格的な復興需要をバネに回復に向かっていくことを期待しますが、いずれにしても景気の先行きには予断を許さない状況にあります。

このような経済状況の中で、建設業は建設投資の急激な減少等を背景に利益率が低水準で推移するなど極めて厳しい経営環境にあります。我々電気設備工事業においても受注の大幅な落ち込みから競争が激化しており、安値受注による無理な短期工事が増加する等、工事の品質や安全面への弊害も危惧されるような問題も生じております。

申し上げるまでもなく、電気設備工事業界は、電気設備の設置とその保守管理等を通じて国民生活や経済活動に直結するライフラインを担い、顧客に対しては良質な設備を提供するという重大な

使命があります。

当協会としては、こうした使命を全うするため、「優秀な人材の確保と将来に繋がる人材の育成」、「適正な価格・工期での受注確保と健全で公正な競争市場の構築」、「工事の品質と透明性を確保し、顧客満足度の高いサービスを提供する分離発注の推進」、「高度な技術と品質で省エネルギー対策の強化と再生可能エネルギーの活用」に積極的に貢献」を活動目標として、会員が一丸となって知恵を出し、力を合わせて時代の要請に応じた事業展開を図るとともに、さらなる経営基盤の強化と技術・技能の向上に努めていくことが重要と考えております。

また、懸案となっている公益法人改革に伴う新法人への移行については、今年の総会でお伝えした移行方針に基づき総務委員会で検討を進めており、今年の総会で具体的な提案を行ない、ご承認をいただきたいと考えております。

厳しい状況下ではありますが、日頃培ってきた会員相互の信頼の下、北海道のライフラインの一翼を担う誇りと責任を自覚し、将来を見据え知恵を出し合って諸課題に挑戦しましょう。

年頭にあたり、会員各社の益々のご繁栄と皆様方のご健勝を心からご祈念申し上げましてご挨拶といたします。

法人職務執行者就任ご挨拶



旭日電気工業(株)
札幌支社 支社長

加藤 正志

明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと

お喜び申し上げます。

この度、昨年10月1日付けで前支社長中村好宏の後任として就任いたしました加藤正志でございます。

平素は、当協会ならびに会員の皆様には大変お世話になり心から厚く御礼申し上げます。

若輩者ではありますが皆様のご指導ご鞭撻を頂き、協会及び業界の発展に微力ながら最善を尽くす所存でございますので、前任者同様宜しくお願

いいたします。

この機会をお借りしまして当社を紹介させていただきます。

当社は、大正3年4月に電気工事会社として創立し、北海道・東北・中部・関西・九州に6支社を配し電気工事業を主力に現在に至っております。

私は、昭和52年に入社し現場代理人として30年余り現場管理に従事しており、以後民間営業に携わっております。

現在、建設業をとりまく環境は大変厳しい状況ですがこの様な中でも前向きに取り組んでいきたいと思っております。

最後になりますが、北海道電業協会の益々のご発展と会員皆様のご繁栄とご健勝を祈念申し上げます、新任の挨拶とさせていただきます。



末廣屋電機(株)
専務取締役

猪股 浩徳

新春の候、会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、本社を滝川市より札幌市へ移転する組織変更に伴い、法人職務執行者となりました猪股浩徳でございます。平素より当協会ならびに会員の皆様には大変お世話になり、心より厚くお礼申し上げます。若輩者ですが皆様のご指導ご鞭撻を賜り、業界及び協会の発展に微力ながら尽くす所存でございますので、何卒よろしくお願い致します。

当社は、大正13年に滝川にて創業して以来、電気工事業者として北海道を中心に、関東・東北において業務を行ってまいりました。長引く景気の低迷など業界を取り巻く環境の変化に対応すべく、一部組織を変更し11月1日付で本社を札幌に移しました。

今後は、札幌本社・滝川本店とし、北海道のすべての中心である札幌の業者としての意識を持ちながら、創業の地である滝川への感謝を忘れずに、社業を通じ北海道に貢献できる企業を目指して、業務に専心していきたいと存じます。今後ともよろしく申し上げます。

最後になりましたが、協会の益々の発展と会員皆様のご清栄とご健勝を祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

～人間力を上げよう～ 「本屋のおやじのおせっかい」

久住書房店主 久住 邦晴氏と語る



経 歴

昭和26年 3月22日生まれ、札幌市出身。札幌西高校、立教大学卒。

平成11年 (株)久住書房代表取締役社長

平成19年 北海道書店商業組合理事長

取組み

いま全国で年間400件近い大型店が開店していますが、その一方で、個人経営の本屋は毎年1,000軒以上姿を消しています。そんな中、地域に根付く「街の本屋」の役割を胸に、斬新なアイデアと行動力で奮闘する久住さん。これまで「なぜだ!?売れない文庫本」をはじめ、全国の書店に波及した「本屋のオヤジのおせっかい 中学生はこれを読め」など独創的な企画で注目された久住さんは、そのほかにも「ソクラテスのカフェ」の開業など、子供から高齢者まで幅広い読書ファンに、本の素晴らしさや文化を発信続けています。

平成15年10月 「なぜだ!?売れない文庫フェア」実施

平成16年10月 「本屋のオヤジのおせっかい 中学生はこれを読め」実施

平成17年 9月 珈琲と古本のブックカフェ「ソクラテスのカフェ」オープン

平成21年 9月 店舗を大谷地へ移転

平成23年10月 「小学生はこれを読め！」実施

○日 時 平成23年11月21日(月)15時30分～16時30分

○場 所 (社)北海道電業協会

○出席者 久住書房店主 久住 邦晴氏

電業協会 中野副会長 橋本広報委員長 伏木広報副委員長 和田広報委員



(橋本委員長)

インタビューを円滑に進めるために、私が進行役を務めさせていただきます。まず、中野副会長よりご挨拶をお願いいたします。



(中野副会長)

久住さん、本日はお寒い中、またお忙しい中お越しいただきまして誠にありがとうございます。私どもの業界も受注が相当に減少しており、経営者としても日々頭を悩ませているところがあります。書店業界におきましても、電子書籍の進展など、経営環境の悪化は想像しがたいものと思います。久住さんは、北海道書店商業組合の理事長を務められておりますが「街の本屋さん」として地元の人達が本に親しむようどう取り組んでいるのか「地域に根差した経営」という視点からも、ぜひ参考になるお話をお聞かせいただけ

れば幸いです。

どうぞよろしく願いいたします。

(橋本委員長)

「中学生はこれを読め！」というキャッチコピーが有名になったきっかけを教えてくださいか？



(久住氏)

当店が平成15年10月に始めた「なぜだ!?売れない文庫フェア」から、有名になってきたのですが、当時は毎月、売り上げの2割ずつダウンが続いていて、9月に閉店を考えていましたが、私は最後の最後まであきらめがつかず、こんな本屋を救ってくれる本が必ずあると信じて、本を読みあさりしました。そして『あなたの会社が90日で儲かる!』(神田昌典 著)という本に出会いました。少ない費用で最大限の集客をする様々な方法を読



「なぜだ!?売れない文庫フェア」

むうち、私は「人を集める」ということに着目しました。しかし「人を集める」ということを一度もやったことがなかったので、広告代理店の友人に相談したところ、2つのことを教えてくれました。ひとつは「マスコミを動かすこと」。もうひとつは「あなた自身が有名になること」でした。

後者はいやなので後回しにして、「何か面白い企画を…」と考えたとき、ふと、温めていた売れない本ばかり集めた「無印本フェア」という企画が浮かびました。さっそく社員に話してみたところ、全員に反対されましたが「なぜだ!?売れない文庫フェア」という名前を考え出して、ちらしを作って新聞各社に送ったところ、取材依頼があり、フェア開始の前日に道新に大きく取り上げてもらいました。テレビの取材などで、大変な騒ぎになりました。売れないはずの文庫が一ヶ月を待たずに、1,500冊全部が売れてしまったんです。こうして、なにかやる時にはマスコミを動かすという最初の形が生まれました。その後、「第三次売れない文庫フェア」「本屋のおやじのおせっかい

中学生はこれを読め！」を実施した結果、有名になったわけです。

(橋本委員長)



なるほど、商売の方法として始まったのですね。フェア名から察するに、久住さんが子どもたちにもっと本を読ませたいと言う要因もあったのでしょうか？

(久住氏)

売り上げが回復して今後の見通しも立った平成21年に始めた「高校生はこれを読め！」フェアからは、まさにその要因がきっかけなんです。先生やご父兄のお話を聞いてみると、今の高校生は自分では本を選べない状況にある。顕著なのは読解力が相当落ちており、彼らの周りにはネットや携帯電話など刺激的なものが溢れていて、このままだと高校生は本を読まずに大学生や社会人になるおそれがあり、初めて本屋の社会的な役割を考え、「高校生はこれを読め！」フェアをやることにしました。また、本に関わる人たちが集まるのが大事だと思い、図書館や大学図書館と提携し、多くの人を巻き込んで選書をしました。後づけにはなりますが、最近はそうした役割をかなり意識しております。

(伏木副委員長)



先日、大谷地のくすみ書店さんにお邪魔しました際、子どもたちの作ったポップ（販促用カード）の展示や、「大人たちこそこれを読め!!」フェアなどが目を引きました。店内にポップは何枚くらいありますか、そしてそれは久住さんが書かれていらっしゃるのですか？



中学生はこれを読め！

(久住氏)

ポップは店内に常時200枚はつけております。私が読んで感じたこと、心が動いたことや面白かったことを書いています。子どもたちのポップは、ここ二年程、教育委員会から頼まれて年に数回私が講師をしている「小中学生のポップ教室」で作られたものです。ポップは感想文と違って非常に短い文章で、いかに表現して本を手にとってもらい、買って頂くかという真剣勝負です。普通に「面白いよ」でなく、どう伝えるか？それは、気の利いた一言をまず探してもらうんです。好きな本の特に面白かった部分を使って、読んでみたくなるような文章を「1～2行で作ってみよう」と教えています。実はこれが一番、手にとりやすい方法なんです。

いかにお客様に本を触って頂き、買って頂くかが、我々の苦勞しているところであり、考えていることです。本を選ぶには、本当はたくさん読んでたくさん失敗すればどれがいい本かわかるようになります。また、本屋に何度も通っていると、



子供たちのおせっかい 大人たちこそこれを読め!!

本のほうから語ってくれるようになる。だから本が好きな人は、自分自身で選べるんですよ。不思議なものです。

(橋本委員長)

久住さんは、もうその域に達していらっしゃるわけですね。

(久住氏)

はい。読んでみて駄目な本というのも勿論ありますが、私は面白い本の方が少ないと思っているので、そんな経験も損になりません。

何故本を読むのか？と聞かれたら、私は「人間力が上がるから」と答えます。勉強をすれば勉強力はつく、でもそれだけではない様々な能力が人間には必要です。知恵、知識、勇気、向上心、友情、それらが本によって全て与えられるわけです。だから、本を読んでほしいんです。

(和田委員)



本を読むと「人間力が上がる」と言われますが、どこからそんな力が出てくるのでしょうか。



(久住氏)

それは、一冊の本がみなさんの手に入るまでに、何十人もの方が関わっています。作家が原稿を書いて出版社の編集が見てやりとりをして書き直し、編集は装丁家に依頼する、装丁家は表紙や紙や挿絵を決め、ようやく本が出来たら今度は値段、発行部数、書店への配本…と、皆がいい本を早く読者に届けたいという熱い思いが本の中に入っている、だから本には力があるということを伝えたいんです。

(中野副会長)

多くの本を紹介していく立場でいらっしゃると思いますが、注意深く見ているところはありますか。

(久住氏)

出版社が本の出来る前の見本版を送ってきて「コメントが欲しい」と頼まれて読むこともありますが、私が今特に読んでいるのは、有名になりそうな本でもベストセラー候補でもなく、いい作品なのに何もしなかったら埋もれて絶版になってしまうような本です。こういう本をできるだけ紹介していくことに力を注いでおります。

(伏木副委員長)

久住さんの考え方をどのように、社員の方に意識づけや教育をされていますか？

(久住氏)

社員たちと私では行動する場所が違いすぎるので、現場でなら相談してやることはありますが、なにか始める時は、私が決める事が多いです。社員たちには、普通の本しか並べるのではなく「何を売りたいのか明確に示せ」とよく言っているので、他には置いていない本を並べるという店の個性は承知してやってくれています。

(橋本委員長)

書店にとって経営を脅かすことがたくさんある中、地域の本屋のおおじさんの奮闘の成果というのは、どのようなものなのでしょうか？

(久住氏)

閉店覚悟の上での最初の企画が成功してからは、ほとんどの企画が当たり、売り上げも伸びまして、なんとかやっていけると思った矢先に、突

然売り上げが落ちました。近くに大型店が出店してきたのです。さらに半年後、売り上げが半分くらいまで急激に落ちました。日本で一番大きな書店がオープンしたためです。これですっかりゼロからのスタートか？と置いていたら「大谷地に出店しませんか？」という紹介あり、移転ならできると決心し、父の代から63年続いた琴似店を閉店しました。小さな本屋は資本も力もなく、基盤としては脆弱ですから、ちょっとした変化ですぐだめになります。体質はまだ変わっていないとおもっておりますので、次を取る手は、流通から変えていくということです。書店業界は問屋、つまり取次主導のいびつな体質をもっているため、流通の都合で本の流れが決まってしまう。そうなる、売れない本がだめな本になるので、娯楽本ばかり流通してしまい、少数の良本が流通しなくなってしまう。

(伏木副委員長)

本屋さんが「こういう本が売りたい」と希望するのではなく、問屋の意見が本屋さんの品揃えを左右するというのでしょうか？

(久住氏)

本屋の力がある時は好きなようにできますが、力が無いとき、例えば支払いが悪い時などは、「こんな本を置いているから駄目なんだ、データに従って売れる本を置け」と、強い指導が取次から頻繁に入ります。しかしデータに従うということは、全国全部同じ品揃えになり、いわゆる金太郎飴書店になってしまうことなので、私は逆の方向でやっていこうと思い、問屋さんと結構ぶつかっています。

(橋本委員長)

実はわれわれも、大手資本の方達と切磋琢磨しつつ、現在奮闘中なのですが、われわれにも勝ち目はあるのでしょうか？

(久住氏)

勝ち目はあります。と言うよりも、勝つしかないんです。私どもにとっての一番の脅威は、コンビニエンスストアの雑誌です。近所に一軒コンビニができると、週刊少年ジャンプの売り上げは半

分に減るんです。次は新古書店です。新刊の発売日当日の夕方には、もう中古本と称して半額で売られているんです。そして大型書店、ネット書店、電子書籍と、どんどん環境は悪くなる一方です。

街の本屋さんは、全国で年間千軒ずつなくなっていて、現在合計約15,000軒まで減っている中、誰も策を見出せていないのが現状です。

当店は、北海道から新しいことをどんどん仕掛けているので、注目を頂いていますが、今までやって来たフェアなどは、どうしても多少やる気がないと効果が出づらいものばかりなんです。自分の店にある本を並べておくだけでなく、外に出て行って高校生に話しかけたり、色々なことをやって初めて生きる企画なので、少し敷居が高いため、流通面の改善は思い切ってやるべきだと思っています。

（伏木副委員長）

それは、中小企業なりのやり方があるということでしょうか？



（久住氏）

私は、個性的な書店でなければ社会に必要とされないだろうと思っております。大型店のミニ版では意味がないですし、大型店にないものを打ち出すなら個性しかありません。十軒あったら十の個性があるのがお客さんにとっても有難いと思うのです。その点を、より考えていきたいです。

（中野副会長）

さて、まだまだお伺いしたいところですが、このあたりでお開きにさせていただきます。久住さん、本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。これからも街の本屋さんとしての久住さんの様々なご活躍を祈念申し上げまして、本日のインタビューを終了とさせていただきます。

ありがとうございました。

※今回のインタビューのご縁から、次号より、本会報誌に久住社長による「おすすめ本のシリーズ」が開始されます。どうぞ楽しみにお待ち下さい。



- ・住所 札幌市厚別区大谷地東3-3-20
CAP大谷地
地下鉄東西線大谷地駅隣接
- ・電話 011-890-0008
- ・営業時間 10時～22時 年中無休

平成23年度経営者懇談会・セミナー



平成23年11月15日(火)午後1時30分からホテルニューオータニイン札幌において「平成23年度経営者懇談会・セミナー」を開催し、会員代表者など70名が参加した。

はじめに、吉川会長から最近の当業界を取り巻く経営環境について「長期化するデフレ基調による経済活動の低迷と市場の大幅な縮小、公共工事、民間工事とも減少、さらに急激な円高等により今後も厳しい状況が続くと見られる。この状況下で、技術・技能力、経営力に優れた企業を目指し、経営基盤の安定化を図って欲しい」と求めた。さらに「本日のセミナーでは、こうした企業が直面する課題の中で、企業の継続的發展に必要な“経営力強化”への対応として開催したので、本セミナーを通じて“経営基盤の強化”と“市場競争力の確保”のツールとして役立てていただきたい」と挨拶された。

経営セミナーでは、建設経営のポイント2011「危機感を社員と共有化するためには」と題して、(株)建設経営サービスの植草陽一氏を講師に招き講演いただいた。

植草氏は、企業の危機管理について触れ、東日本大震災後に実際に現地レポートした体験事例を紹介。その中で感じたことは、災害復旧活動では初動対応の重要性。さらに、これだけはやってほしいこととして、災害に対して日ごろから意識を持つこと、災害訓練は継続して欲しいと訴えた。

建設経営のポイントとして、変革を成し遂げるためのステップを挙げ、その中から「危機管理を高める」「ビジョンを明確化する」「小さな成功を示す」の3項目が大切であると説いた。

参加者は講師の話に熱心に耳を傾け、建設経営のポイントを学んだ。



吉川会長 挨拶



植草 陽一 講師

平成23年度経営者懇談会



平成23年11月15日(火)経営セミナーに引き続き「平成23年度経営者懇談会」を、会員代表者など約50名が参加して開催された。

本懇談会については、当協会を取り巻く諸問題、協会事業に関する意見や提言を頂き、今後の協会事業に反映し、更に会員代表者相互の意見交換の場として開催している。

はじめに、吉川会長から「長引く経済活動の低迷と公共投資の大幅な減少などで、我々を取り巻く経営環境は極めて厳しくなっている。当協会としてはこのような環境下であるが、平成23年度会員大会決議事項である4項目を基本に、優秀な人材の確保と育成、地球環境保全の推進、適正かつ合理的受注、分離発注の推進等をモットーに、会員一人ひとりが大きな転換期に入っていることを認識し、技術力の更なる向上や経営改善に迅速かつ、柔軟に取り組んで行くことが重要である。本日の懇談会では、協会の健全な発展と会員皆様方の繁栄に繋がるよう活発な意見交換の場としたい」と挨拶された。

つづいて、小川専務理事の司会で議事進行となった。(議事次第参照のとおり)

【平成23年度経営者懇談会議事次第】

1. 関係官公庁との意見交換会の開催概要について
2. 平成23年度会員大会決議事項等について
3. 新公益法人への移行に向けた取り組みについて
4. 各地区協会の活動近況報告
5. 協会事業および関係官公庁に対する要望事項について (フリートーキング)

懇談会終了後は、交流会となり会員相互和やかに親睦を図った。



交流会



各地区協会からの活動報告



開会挨拶 中野副会長



閉会挨拶 山口副会長

平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習会



平成23年10月29日(土)～10月30日(日)の2日間、北海道電気会館において開催され、全道から27名が受講した。

この講習会は、国土交通省の提唱による「基幹技能者の確保・育成・活用に関する基本方針」をふまえ、(一社)日本電設工業協会が策定した「電気技能労働者育成指針」に基づき、電気工事業界における基幹技能者を認定する講習会で、合格者には平成21年度から経営事項審査のなかの技術力を評価するZ評点に、3点が認められている。

最初に当協会の小川専務理事から「電設業界が、魅力と誇りのもてる産業へと発展するためには「人づくり」であり、優秀な技術者、熟練した技能者の確保と育成が重要な課題である。そこで、現場の技術者を指導・統率する役割を担う登録電気工事基幹技能者の存在が必要となってくる。基幹技能者としての役割、知識を身に付け最終日の試験には全員合格して欲しい」と挨拶された。

認定講習会は、全国一斉に行われ当協会の認定講習試験委員が講師となり、電気工事基幹技能者の役割や基礎知識など幅広い内容を講義した。受講者は資格取得に向け真剣に取り組み、特に講師からの重要ポイントについては、メモを取りながら熱心に耳を傾けていた。

【講習内容・講師】

1. 開講挨拶 (社)北海道電業協会専務理事
小川 孝 樹
2. 電気工事基幹技能者の在り方等
電気工事における新材料・新工法等
今野 正 章 氏
(北海電気工事(株)電設工事部長代理)
3. OJT教育
澤田 博 氏
(三共電気工業(株)常務取締役工務部長)
4. 関係法規・施工管理・事務管理・工程管理
内山 優 氏
(株)北弘電社技術部 担当部長)
5. 資材管理・安全管理・労務管理
吉崎 俊明 氏
(拓北電業(株)取締役営業推進部長)
6. 品質管理・環境管理
外岡 甫 氏
(協信電気工業(株)常務取締役)



内山 優 講師



澤田 博 講師



開講挨拶 小川専務



今野 正章 講師



吉崎 俊明 講師



外岡 甫 講師

安全衛生パトロール実施報告



平成23年11月8日(火)技術安全委員会委員による安全パトロールを実施した。

今回は、北海道電力(株)が発注した札幌統括電力センター桑園増築工事現場で、当協会の会議室に関係者が集合。はじめに澤田技術安全副委員長から「我々の業界は厳しい状況が続いているが、安全対策にはあらゆる状況を想定して取り組んで欲しい」と挨拶された。続いて事務局から、パトロール点検表に基づき、点検担当者を決定後現場へ向かった。現場事務所で、北海電気工事(株)の小関聡現場代理人から、工事の概要説明を受けた後「点検前ミーティング」を行い工事現場へ向かった。

今回の現場は、電力安定供給の要の施設で、主要構造はSRC造り、延床面積2,963.21㎡、地上3階、搭屋1階で地震・豪雨等自然災害にも対応できる設計となっていた。特に1階出入口には防潮板が設けられる等万全を期していた。平成24年



3月完成予定で進められている。

当日は、2階と3階においてスラブデッキの墨だし作業中であった。

パトロールは最初に3階建屋から順次2階、1階と点検して最後に外回りの掲示板やゴミ等の整理、分別状況を点検して終了した。

終了後、小関聡現場代理人は「これから厳しい季節になること、さらに設備関係の業者が輻輳してくるなかで、完成の3月まで無事故・無災害で乗り切るように全員で協力して頑張る」と力強く語った。

午後から協会会議室において「安全パトロール点検表」のチェック項目の整理を行い個別総評が行われた。内容は、概ね良好であると評価し、最後に澤田副委員長から「現場の中はきちんと整理されており、全体的に良好であった。特に、作業員に対し安全マナー教育が徹底されている様子を感じ取れた。あとは、来年3月の完成まで安全には万全を期して取り組んで欲しい」と総評された。

【実施メンバー】

技術安全副委員長	澤田 博 (三共電気)
委員	工藤 保 (東光電気)
〃	今野 正章 (北海電気)
〃	小川 恒明 (協信電気)
〃	内山 優 (北弘電社)
〃	加藤 正志 (旭日電気)
〃	吉崎 俊明 (拓北電業)
(随行者)	枝並 秀喜 (電業協会)



恵庭市の概要

恵庭市は札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置する、道央圏の中核都市です「恵庭」という名称は、アイヌ語の「エエンイワ」(恵庭岳のことで、鋭くとがった岩の意味)に由来しており、まちの中心には漁川(いざりがわ)が流れ、西側には恵庭岳がそびえています。都市環境と豊かな自然が共存し、夏は涼しく、冬は積雪が少ない温暖で住みやすい気候となっています。

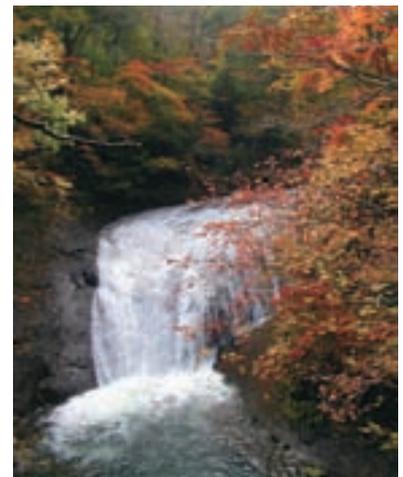
ラルマナイ自然公園

恵庭市街から道道恵庭岳公園線を支笏湖方面へ進んだ漁川上流・ラルマナイ川一帯には、湖や深い森が連なった恵庭溪谷があります。溪谷には「白扇の滝」「ラルマナイの滝」「三段の滝」の3つの個性的な滝があります。中でも「白扇の滝」は高さ15m・幅18mあり、真っ白な扇を広げたような優美な姿に見えることから名付けられました。昭和61年には北海道観光百景の河川溪谷・滝の部で第6位に選ばれており、恵庭溪谷第一の名勝地となっています。特に紅葉の時期は、周辺のヤマモミジなどが色づく景色と調和して、美しい色彩を見せてくれます。

国指定史跡カリンバ遺跡

カリンバとは、アイヌ語で「桜の木の皮」の意。遺跡は、JR恵庭駅の北方約800メートルのところにあります。カリンバ遺跡は、縄文時代から

近世アイヌ文化期のもので、平成11年の発掘調査の際に、多数の土坑を発見。そのなかに、漆塗りの装身具や玉が多数副葬された縄文時代後期の土坑墓群が含まれており、国内で初めて発見された漆製品もありました。縄文時代後期末から晩期初めの頃の合葬墓は全国的にも珍しいことから、平成17年に段丘面と低地面をあわせ、約4.2ヘクタールが国の史跡に指定されました。



白扇の滝



カリンバ遺跡出土品

花のまち・ガーデニングのまち

1990年以来、市民と行政が一体となって本格的に取り組んできた「花のまちづくり」。平成22年度には「花の観光地づくり大賞」(社団法人日本観光協会主催)を受賞するなど、現在では「花のまち・恵庭」として全国的に知られるまでになりました。毎年6月には、花にスポットを当てたイベント「花とくらし展」を開催。中でも市内の住宅街の庭を巡る「ガーデニングアー」は、早い時間帯に受け付けが終了してしまう人気ぶりです。恵庭は、花き生産が盛んなことから、札幌大通公園の花壇には恵庭産の花苗が多く使用されています。



ガーデニング

恵庭市花の田園住宅

「ガーデニングや家庭菜園を満喫できる広い住宅地を」という声を背景に、市が策定した基本構想に基づき、市内の民間事業者が提案した「森と花に囲まれたガーデニング住宅」のモデル地区。景観づくりや建築デザインのルールがあり、調和のとれた魅力的なまちづくりを実現します。道内はもとより、本州からも問い合わせが寄せられるなど、自然環境と生活環境のバランスがよく快適なスローライフができる地区として注目されています。

道と川の駅「花ロードえにわ」

1日の交通量が3万台を超える「国道36号」と、サケの遡上・産卵を見ることができの一級河川「漁川」が交差する地区に、平成18年7月にオープンしました。明るく開放感のあるコンサバトリー(温室)を備えたセンターハウスが特徴。

地元食材を使ったメニューを提供するレストランや手作りパンのベーカリーなどが併設されています。平成19年には恵庭農畜産物直売所「花野菜(かのな)」もオープン。4月中旬から11月中旬まで営業しており、週末には1日平均1,500人が訪れる人気の直売所です。



花ロードえにわ

恵庭の名産

代表的な地場産品のひとつに「えびすかぼちゃ」があります。えびすかぼちゃは鮮やかな果肉の色、強い甘みとホクホクした食感が特徴で、関西地方で特に人気があります。この「えびすかぼちゃ」を使用した「恵みの庭のかぼちゃプリン」「恵みの庭のかぼちゃリゾット」などの商品が「えにわブランド」として人気を集めています。ほかにも「えにわっば」(釜飯)、「花馬車プランター」などがあり、道内外で「恵庭」のPRに一役買う存在となっています。



かのな



日本一寒い町 陸別町

陸別町長 金 澤 紘 一

〈陸別町の概要〉

陸別町は北海道の内陸部に位置し、道東のほぼ中央で、十勝地域と釧路・オホーツク地域の間地点にあります。町の面積の約8割を森林が占めており、開拓以来、林業の町として栄え、最盛期には人口が8,000人を超えていましたが、産業構造の変化により町の林業が衰退し、2,700人まで減少しています。

現在では林業の他に、酪農が基幹産業となっている他、陸別町の特徴を活かした観光施設やイベントがあり、たくさんの観光客が陸別町を訪れ、地域を元気付けています。

〈日本一の寒い町 ～しばれフェスティバル～〉

北海道の内陸部に位置し周囲を小高い山に囲まれている影響で、冬期間の気温が非常に低く、早朝には氷点下30度を下回ることがあり、厳しい自然環境となっています。

特に、1月と2月の厳冬期における最低気温を北海道内の他の寒冷地と比較すると、陸別町の寒さが際立っており、「日本一の寒さ」を町づくりの一つのツールとして活用しています。

平成23年2月の開催で30回の節目を迎えた「しばれフェスティバル」は、日本一の寒さというネガティブなイメージを逆手に取り、資源としてアピールするために始めたイベントで、メインイベントである「人間耐寒テスト」には、毎年、全国からたくさんの方が氷点下30度の世界を期待して集まります。

「人間耐寒テスト」は、陸別町の寒さを活かして作成される氷のかまくら「バルーンマンション」をテント代わりに、一晚酷寒の屋外で過ごすというイベントで、グループや会社単位で参加し真冬のキャンプを楽しんでいます。



しばれフェスティバル公式ホームページ → <http://www10.ocn.ne.jp/~shibare/>

このアピールの最大の成果として、日産自動車の寒冷地試験場の誘致があります。日産自動車の試験場は広大な敷地を有し、現在では、日産自動車が開発される車種のほとんどが陸別町での試験を経て販売に至っています。

また、毎年、寒冷地実験の場として陸別町が選ばれおり、町内の「北海道陸別しばれ技術開発研究所」は、各研究機関や国立環境研などと連携した取組みを行っています。

〈星空の町 ～ 銀河の森天文台〉

陸別町は森林に囲まれ、近隣に大都市がなく光害が少ないため「星空のまち」として環境省より認定されています。

この自然環境を活かし「銀河の森天文台」を開設し、115cm大型望遠鏡でその時期見頃の惑星や月、遙か彼方の星雲や星団、銀河などさまざまな天体を随時ご案内しています。

陸別町では日本国内では大変珍しい、オーロラの撮影に成功しており、当施設はオーロラの研究の場としても活用されています。



銀河の森天文台ホームページ → <http://www.rikubetsu.jp/tenmon/>

〈データセンター誘致〉

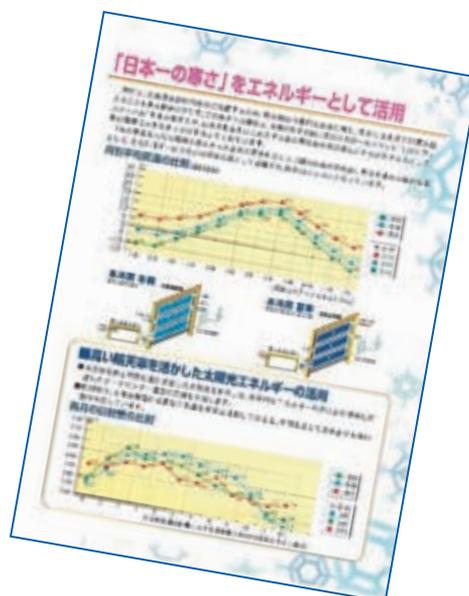
3月11日に発生した東日本大震災の影響により、首都圏に集中するデータセンターの地方への分散と省電力化がもとめられる中、陸別町は冷涼な気候と強固な地盤をセールスポイントとしてデータセンターの誘致を進めています。

冷暖房費の節減に加え、高い晴天率を活用した太陽光発電によるバックアップ用電源に着目しており、建設候補地に設定している小利別地区は、十勝平野断層帯から10キロ以上離れおり、強固な岩盤上に位置しているため、これまで地震による大きな被害がなく、比較的近い距離で発生した十勝沖や釧路沖の地震でもほとんど揺れを感じることはありません。

また、利別川の最上流域に位置して河川災害などの水害もほとんどありません。

女満別空港と道横断自動車道北見－小利別間（2015年ごろ完成予定）を利用した場合、交通アクセスが良好となることとなります。

誘致に向け、「町地域活性化パンフレット」を作製し、陸別の気候や交通アクセス、候補地の紹介ほか、日本一の寒さを生かした氷冷房の利活用なども記載しております。



〈問い合わせ先〉

陸別町役場

総務課企画財政室

電話 0156-27-2141

平成23年度「公共建築の日」イベント

「公共建築の日」フェスティバル2011 in モエレ



このイベントは、北海道開発局が主催し北海道、札幌市、当協会など、自治体や各種団体が後援するもので、生活に密接に関わっている公共建築が果たしている役割などを、子供から大人まで幅広い市民層を対象に、各種イベントを複合的に開催する事で、公共建築に理解と関心を持ってもらう事を目的として毎年開催されています。

当協会では4名のスタッフが、10月15日(土)に開催された「ものづくり体験コーナー」を担当しました。このコーナーは、電線を使って昆虫やメガネ等を自由に作ってもらい、持ち帰ってもらう事で、子供たちに建築設備に少しでも興味をもってもらうことを目的に実施しています。



【開催日時】 平成23年10月15日(土)
～ 10月16日(日)

【場 所】 札幌市東区モエレ沼公園
ガラスのピラミッド内

【イベント内容】

1. ダンボールシティ
2. ものづくり体験・作って見よう
3. パネル展
4. 公共建築フォトコンテスト
こども絵画展・ポスターコンテスト
5. コンサート

【参加スタッフ】

(株)北弘電社 内川 勝哉
〃 河合 敦子
北海電気工事(株) 谷瀬 公司
〃 尾形 学

【イベントに参加して】

ものづくり体験で、子供たちが目を輝かせて一生懸命に取り組んでいる姿は、気持ちの良いものでした。この体験でものづくりの楽しさを感じてもらえればと思っています。

北海電気工事(株) 尾形 学

分離発注訪問記

経営委員会が担当する活動の一つに分離発注の推進活動があります。この活動については（社）日本電設工業協会のスローガンにも取り上げられている重要な活動です。

（社）北海道電業協会においても各地区電業協会員の皆様の御協力を頂き長年活動を続けてきています。北海道における平成22年度の状況は全道179市町村のうち174市町村において分離発注が実施されており全国的にみても高い発注率になっています。これは発注者様の御理解がなによりですが、我々の活動も寄与しているのかなと思っています。

当協会では経営委員会の分離発注担当委員が担当地区を決めて訪問活動を実施しています。

- ・日高振興局管内を11月10日～11日
渡辺広史委員（東光電気工事株）と内川勝哉委員（株北弘電社）
- ・空知総合振興局管内を11月22日、24日
国兼勝見委員（末廣屋電機株札幌支店）
- ・石狩振興局管内を11月24日
三上哲哉委員（北電力設備工事株）と堀内利行委員（株関電工北海道支店）

私は石狩管内を担当しています。今回も、石狩市からスタートし当別町、新篠津村、江別市、北広島市、恵庭市そして千歳市まで訪問してきました。

訪問については継続して活動を行って来ているので、覚えていてくれる方も多く、「あっ、分離発注だね」「分離発注してるよ」「今年は何々の仕事を出したけど分離発注ですよ」と言うように話してくれ大変心強く感じました。

そして、今回は会報に投稿するにあたり、石狩市建設水道部の南部長に事情を話し、お願いしたところ原稿執筆中で忙しいにも係わらず、写真撮影も含め快諾して頂き大変ありがとうございました。

最後に、この推進活動は北海道だけではなく、（社）日本電設工業協会全体で全国的に実施している活動になります。今後も途切れることなく継続して行うことが非常に大切であると思います。そして、最後に訪問を受けて頂いた皆様へ改めて「ありがとうございました」

今年もまたおじゃまいたします。

記 北電力設備工事株 三上 哲哉



石狩市建設水道部にて、南治彦部長（左）に手渡す三上委員

厚生委員会行事報告



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様方には、常日頃から歌唱部会の活動に多大なるご理解とご協力を賜っておりますことを、心から厚く御礼申し上げます。

月日の経つのも早いもので、あっという間に1年が過ぎてしまいました。

部会は年4回開催しており、今年度は既に第2回まで開催されました。3回目は1月に4回目は3月に開催予定です。皆様の参加をお待ちしております。

常時20数名の参加者で開催しておりました歌唱部会でしたが、今年度は20名を下回っており少々寂しさを感じております。

コミュニケーション不足と言われる昨今、せめてカラオケで日頃の憂さを晴らし、酒を酌み交し懇親を深めたいものです。

17時からの2時間はアツと言う間に過ぎてしまいます。会費は3,000円程度で、食事は軽食程度ですが、おいしい酒は何でもOKです。

歌唱部会のメンバーの中には、プロ顔負けの歌唱力ある方、物真似の出来る方、パフォーマンスの出来る方がおります。歌われる曲も、昔流行った歌、少し前に流行った歌、今流行っている歌、若者には解らない歌、年配には解らない歌、色々です。

まだ歌唱部会に参加されたことが無い方、歌は苦手な方、話しをするだけでも良いので是非一度参加して下さい。

今後とも、楽しい会を継続するため努力して行きます。宜しくご協力お願い申し上げます。

歌唱部会幹事 佐久間忠信（北明電気工業株）



ボウリング部会



第3回大会スタート前

第3回ボウリング部会報告

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には新しい年をご健勝で迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、平成23年度当部会の最後を締めくくる第3回ボウリング大会が10月21日ディノスノルベサにおいて18名の参加を頂き行われました。

人間関係が稀薄と言われる昨今、自分や仲間の投げるボールに歓喜し、健闘をたたえ合う姿には我々オジサン達もパワーをいただきました。

また、表彰式では安達電設(株)関場社長のご配慮で毎回毎回おいしい焼酎を出して頂き、楽しい懇親会が行われる事に感謝申し上げます。この懇親会においても電気工事業界の更なる発展を誓い合

った次第です。

ボウリングは有酸素運動の中でもトレーニング効果が高いことは意外と知られていません。

遊びながら気になる脂肪を燃やして筋力もアップできるボウリング。

今年も多数の参加をお待ちしております。

ボウリング部会幹事 嶋津 博 (島津電設(株))

平成23年度第三回 北海道電業協会ボウリング大会順位表

平成23年10月21日開催

順位	氏名	1G	2G	10ハンド	トータル	会社名
優準	嶋津 博	151	146	34	365	島津電設
1	清水 希予志	109	109	61	340	北明電気
2	細井 正伸	143	162	14	333	北海電気
3	小林 勇治	140	130	31	322	三共電気
4	長谷川 政幸	153	150	8	319	北海道タツワ電気
5	小原木 正弘	156	125	16	313	弘和電気
6	吉岡 秀雄	116	122	36	310	弘和電気
7	本間 美則	119	125	31	306	拓北電業
8	内田 勝久	106	104	46	302	北海電気
9	畑 澄人	115	116	34	299	北海道タツワ電気
10	内川 勝哉	142	106	24	296	北弘電社
	(ハイゲーム賞) 162ピン		細井 正伸			北海電気
	(平和賞)		清水希予志			北明電気
	(大波賞) 47ピン		森崎 亨一			北盛電設
	(小波賞) 2ピン		内田 勝久			北海電気
	(ラッキー賞) 13位		向平 義美			北弘電社
	(飛び賞) 15位		十日市 樹			北弘電社
	(ブービー賞)		森崎 亨一			北盛電設
	(ブービーメーカー賞)		中村 淳一			北海電気



第3回優勝者 嶋津さん

平成23年度ボウリング部会 活動報告

新年あけましておめでとうございます。

平素は当部会の活動にご協力を頂き、ありがとうございます。

年間活動を全て終了いたしましたのでご報告させていただきます。

平成23年度も6月、8月、10月と例年通りディノスボウルノルベサにおいて年3回の開催で行われました。これから当協会や会社を担う若手の参加も多く、表彰式の盛り上がりには、力強いエネルギーを感じる次第です。

ここで、ボウリングブームについて一言。

昭和40年代中頃、空前のボウリングブームが到来いたしました。テレビでは毎日のようにボウリング番組が放送され、プロボウラー達はまるで人気タレント扱い。至る所でボウリング場が乱立し、ボウリング関係の雑誌は週刊、月刊合わせて20誌以上も創刊されました。

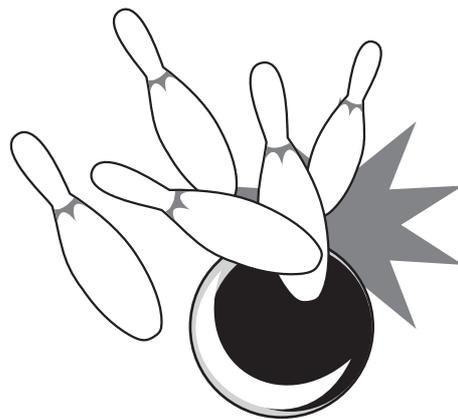
そんなブームの火付け役となったのが、昭和44年に初の女子プロボウラーとなった一期生13人の中の一人、中山律子さん。若く美しい律子さんがミニスカートで投球する姿が一躍脚光を浴び、国民的な人気者となってボウリングを世間に浸透させていったのです。なかでも同じ一期生で最大のライバルと言われた須田開代子さんとの数々の名勝負は、すさまじいものがありました。そんな活躍の中でも特に印象に残っているのは、昭和45年8月21日のレディス・チャレンジボウルで女子プロ初のパーフェクゲームを達成した瞬間です。その様子はテレビで全国放送され、前人未踏の偉業に全国民が熱狂し「さわやか律子さん」の愛称とともに社会現象にもなりました。

昭和48年のオイルショックを境にボウリングは急激に衰退し、わずか数年で終わりを告げました。しかし、今なおボウリングは誰にでもできるポピュラーなスポーツとして定着しております。

もしかしたら、また、ボウリングブームがくるかも…。

今年も、たくさんの皆様の参加により親睦を深めて、楽しいボウリング部会にしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

ボウリング部会幹事 小原木正弘（弘和電気株）



ゴルフ部会



表彰式の様子

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様方には常日頃より、ゴルフ部会の活動に多大なご理解とご支援を賜っておりますこと、心から厚く御礼申し上げます。

昨年より、ゴルフ部会の幹事に任命されました。先輩方のご指導の元頑張りたいと思っておりますので宜しくお願いします。

ゴルフ部会の活動内容を説明させていただきます。まずは、ハンディキャップ委員により、前年度の成績を参考に決定させて頂いております。一度優勝、準優勝をされ、ハンディキャップが下がってしまった方々から、見直し等の意見を頂いていますが、これらも含め慎重に審議をさせて頂いておりますのでご理解をお願い致します。次に各大会の組合表の作成、大会当日の受付、表彰式の準備等を行っております。

新年早々、練習をスタートされている人も多いと思いますが、今年の私は、冬期間の練習課題を決めて、練習に取り込み、ゴルフ部会幹事ではありますが優勝をしてみたいと思っています。少し

生意気かも知れませんが、連続優勝もしてみたいなあ～（のぼせ上がってすいません）

そこで課題を三つ決めました。

課題その1…一日100回の素振り（おもいバットでゆっくりフィニッシュまで）

課題その2…右肩が下がらないようにスイング軸を確保する。

課題その3…ゴルフのスイングでは左目が右目よりも下がることは一度も無い。

（江連正モダンゴルフより）

以上の3項目が私の冬期練習課題ですが、皆様方も風邪などに充分に注意をして練習をして行きましょう。

今年も昨年同様4回の大会を予定しています。近年参加者が少なくなってきていますので、多数の参加をお待ちしております。皆様方と一緒に楽しいゴルフ部会にしていきたいと思っていますので宜しくお願いします。

ゴルフ部会幹事 櫻庭 謙次（北電力設備工事）

【昨年の優勝者ご紹介】



第1回札幌国際
小野寺涼一さん（大成電気）



第2回札幌南CC
中村好宏さん（旭日電気）



第3回札幌エルム
橋本佳明さん（橋本電気）



第4回札幌芙蓉
住本邦裕さん（道タツヲ）

業界だより

○法人職務執行者の変更

- | | |
|----------|-------------|
| ・末廣屋電機株 | 平成23年11月1日付 |
| （新）専務取締役 | 猪股 浩徳 |
| （旧）札幌支店長 | 国兼 勝見 |

理事会・委員会報告

|| 理 事 会

◇平成23年10月19日(水) 12:00~13:30

第4回議題

【協議事項】

1. 常設委員会委員の選任対応について
2. 平成23年度経営者懇談会・経営セミナーの開催要領（案）について
3. 平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習会の開催について

以上提案どおり承認された

【報告事項】

1. 会社代表者、法人職務執行者等の変更について
2. 北海道開発局営繕部と電気・空衛両協会との意見交換会概要報告
3. 平成23年度会員大会の開催概要について
4. 平成23年度北海道赤レンガ建築賞第2回審査委員会の概要報告
5. 札幌開発建設部の総合評価配点表改定に関する説明会の概要報告
6. 札幌市公契約条例に係る意見交換会の概要報告
7. 平成24年電気関係賀詞交歓会について
8. 平成23年10月~11月行事予定について
9. その他意見交換

以上概要を報告（小川専務理事）

◇平成23年12月1日(木) 16:30~17:30

場 所 ホテルニューオータニイン札幌

第5回議題

【協議事項】

1. 電設協賛助会員（北海道地区）の退会について
2. 今後総会までの協会主要事業スケジュールについて
3. 支部事務経費（都道府県協会に対する助成金）について

4. 平成23年度中間経理報告
以上提案どおり承認された

【報告事項】

1. 第240回本部政策委員会の概要報告
2. 本社移転に伴う法人職務執行者変更について
3. 平成23年度経営者懇談会・セミナーの概要報告
4. 平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習会の結果報告
5. 平成23年度登録電気工事基幹技能者認定専門委員会の開催について
6. 平成23年度安全パトロールの実施結果
7. 平成23年度北海道赤レンガ建築賞第2回実行委員会の概要報告
8. 平成23年12月~24年1月行事予定
9. その他意見交換

以上概要を報告（小川専務理事）

|| 三 役 会

◇平成23年10月4日(火) 12:00~13:30

第7回議題

1. 平成23年度経営者懇談会・セミナー開催要領(案)
2. 平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習開催
3. 北海道開発局営繕部と電気・空調協議会との意見交換会の開催概要
4. 「公共建築の日」フェスティバル2011 in モエレのイベント参加
5. 平成23年度北海道赤レンガ建築賞第2回審査委員会の開催概要
6. 電力活用札幌地区協議会「平成23年度施設見学会」
7. 札幌開発建設部の総合評価配点表改定に関する説明会の開催概要
8. 札幌市公契約条例に係る意見交換会の概要報告
9. 平成23年10月~11月行事予定
10. その他意見交換

◇平成23年11月7日(月) 12:00~13:30

第8回議題

1. 平成23年度経営者懇談会・セミナーの運営
2. 平成23年度中間経理報告
3. 支部事務経費(都道府県協会に対する助成金)の改定
4. 「電設技術」平成24年年賀広告募集
5. 平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習会の開催結果
6. 「公共建築の日」フェスティバル2011 in モエレのイベント参加報告
7. 平成23年度安全パトロールの実施
8. 平成23年度登録電気工事基幹技能者認定専門委員会の開催
9. 会員代表者、法人職務執行者の変更
10. 平成23年11月~12月行事予定
11. その他意見交換

◇平成23年12月1日(木) 15:30~16:30

場 所 ホテルニューオータニ

第9回議題

1. 電設協賛助会員(北海道地区)の退会
2. 今後総会までの協会事業主要スケジュール
3. 第240回本部政策委員会の概要報告
4. 平成23年度経営者懇談会・セミナーの概要報告
5. 平成23年度安全パトロールの実施結果
6. 平成23年度北海道赤レンガ建築賞第2回実行委員会の概要報告
7. 平成23年12月~24年1月行事予定
8. その他意見交換

総務委員会

◇平成23年10月25日(火) 12:00~13:30

第3回議題

1. 平成23年度経営者懇談会・セミナーの運営
2. 平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習会の開催
3. 平成23年度会員大会の概要報告
4. 平成23年度北海道赤レンガ建築賞第2回審査委員会の概要報告
5. 札幌市公契約条例に係る意見交換会の概要報告
6. 平成24年電気関係賀詞交歓会
7. 一般社団法人への移行に向けた規程類の整備
8. その他意見交換

◇平成23年12月8日(木) 15:30~17:00

第4回議題

1. 今後総会までの協会事業主要スケジュール
2. 平成23年度中間経理報告
3. 平成23年度経営者懇談会・セミナーの開催概要
4. 平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習会の結果報告
5. 平成23年度北海道赤レンガ建築賞第2回実行委員会の概要報告
6. 一般社団法人への移行に向けた規程類の整備
7. その他意見交換

経営委員会

◇平成23年12月14日(水) 16:00~17:00

第4回議題 (議長:水口副委員長)

1. 第4回議事録(案)の承認
2. 電設協第240回政策委員会の開催概要
3. 平成23年度会員大会決議
4. 平成24年電気関係賀詞交歓会
5. その他意見交換

広報委員会

◇平成23年11月21日(月) 15:30~17:00

1. 会報冬号「新春特集」担当メンバーによる打ち合わせ
2. 会報「冬号」への編集日程
3. 会報冬号「新春特集」インタビュー
久住書房店主 久住 邦晴 氏

◇平成23年12月2日(火) 13:30~15:00

1. 会報冬号「新春特集」インタビューの校正作業

◇平成23年12月12日(月) 15:00~17:00

第3回議題

1. 会報「春号」編集方針
2. 会報「冬号」校正
3. 新春特集
4. その他意見交換

技術安全委員会

◇平成23年10月27日(木) 12:00~13:30

第2回議題

1. 平成23年度技術安全委員会委員
2. 実施報告
 - ・平成23年度安全大会の開催報告
 - ・平成23年度札幌市電気設備施工研修会
 - ・平成23年度登録電気工事基幹技能者特例講習会
 - ・技術系学校の先生との見学会・懇談会
 - ・技術系学校の生徒との見学会
 - ・1級実地電気工事施工管理技術検定試験受講講習会
3. 平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習会
4. 平成23年度安全パトロール実施要領(案)
5. 技術講習会の開催(案)
6. 電気設備見学会の開催
7. その他意見交換

◇平成23年12月15日(木) 16:00~17:00

第3回議題

1. 実施報告
 - ・平成23年度登録電気工事基幹技能者認定講習会
 - ・平成23年度経営者懇談会・セミナー
 - ・工事現場安全パトロール
2. 登録電気工事基幹技能者認定専門委員会の概要報告
3. 技術講習会の開催
4. 会員対象の現場見学会の開催
5. その他意見交換

事務局日誌

- 10月4日(火)・第7回三役会議
13日(木)・平成23年度会員大会
(名古屋市)
14日(金)・札幌電気工事業協同組合創立60周年
記念式典祝賀会
樋口副会長(札幌グランドホテル)
15日(土)・公共建築の日イベント
(モエレ沼公園)
19日(水)・第4回理事会、常議員会
21日(金)・第3回ボウリング大会
25日(火)・第3回総務委員会
27日(木)・第2回技術安全委員会
29日(土)・登録電気工事基幹技能者認定
~30日(日) 講習会 電気会館
11月7日(月)・第8回三役会議
8日(火)・安全パトロール
15日(火)・経営者懇談会・セミナー
・会員交流会
(ホテルニューオータニイン札幌)
18日(金)・本部第240回政策委員会(東京)
山口副会長
21日(月)・広報委員会
新春インタビュー
24日(木)・本部理事会・運営委員会(東京)
吉川支部長

29日(火)・北海道赤レンガ建築賞第2回実行委員会
小川専務理事

- 12月1日(木)・第9回三役会議
・第5回理事会、常議員会
(ホテルニューオータニイン札幌)
6日(火)・登録電気工事基幹技能者認定専門委員会(東京)
枝並事務局長
8日(木)・第3回総務委員会
12日(月)・第3回広報委員会
14日(水)・第4回経営委員会
15日(木)・第3回技術安全委員会
16日(金)・本部運営委員会(東京)
吉川支部長
27日(火)・会報冬号、発送・配布
28日(水)・仕事納め

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災の津波被害とそれを原因とする東京電力福島原子力発電所の放射能漏れ事故で明け暮れた一年であったような気がいたします。

被害にあわれた皆様と未だに避難を余儀なくされておられる皆様には心からご冥福とお見舞いを申し上げます。年が変わり今年の“辰年”が復興・復旧に拍車がかかり、一日も早く普通の生活ができますことを祈念するところでもあります。

さて、この度は北海道開発局営繕部長 内野井 宗哉様には公務ご多忙のなか年頭のご挨拶を御執筆いただき誠にありがとうございました。今後はファシリテイマネージメントという概念を官民挙げて持たなければならないことを示唆していただきました。

また、新春特集にご協力を戴きました 久住 邦晴様には“本の持つ力”を力説していただき、普段文字離れしている我々に活を入れていただいたような気がいたします。誠にありがとうございました。

今年も皆様に喜んでお読みいただける紙面作りを心がけてまいりますので、引き続きご愛読をお願いいたします。

“辰年”のこの一年が皆様にとって輝かしい年になりますことを御祈念申し上げ編集後記といたします。

広報委員長 橋本 耕二



発行 平成24年1月
社団法人 北海道電業協会
札幌市中央区南1条東1丁目3番地
パークイースト札幌6階
TEL (011)271-2932
FAX (011)271-2952
E-Mail:dodenkyo@estate.ocn.ne.jp